

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「開発創造・和衷敬愛・質実剛健」の建学の精神のもと、「生徒の望む進路を実現する学校」をめざしていく。
 育てたい生徒像：(開発創造)自分で創意工夫でき、(和衷敬愛)おだやかで思いやりをもって人に接することができ、(質実剛健)自分を律し社会に貢献でき、
 (「開拓者精神」による実践)勇気を持って常に新しいことに取り組もうとする生徒を育てる。
 重点課題：生徒の志と夢をはぐくみ、学校力を高め、地域社会と連携する。

2 中期的目標

1. 生徒の学力を高め、進路を保障

(1)「学習における自律精神の育成」:

ア 規範意識を高め、挑戦する心の育成

※授業遅刻の減少、生徒指導の徹底、人権学習の推進

イ 学習意欲の向上と継続した学習の推進

※家庭学習の徹底、授業態度の向上をはかり、3年後には進学における成果を出す

※生徒学校教育自己診断「家庭で授業の予習や復習をきっちりとしている」平成24年度肯定的回答38%を3年後には20%増の60%に(平成27年度)

※生徒学校教育自己診断「家庭学習時間1時間以上」H24年度34%、「0時間」H24年度31%を3年後の平成27年度にそれぞれ20%増の54%と10%に

※家庭学習を推進する取り組みを実施する。

(2)「生徒参加型の国際交流」:

ア 多文化を理解し、自己表現能力の育成

※授業におけるグループ学習の推進、体験学習の充実

イ 国際交流を通して、グローバルな視点から生き方を学び、積極的な人生をめざす

※在校生の国際交流：韓国・ニュージーランド・台湾の高校への派遣及び、姉妹校の受け入れによる相互交流

※卒業生の国際交流：ニュージーランド・台湾に卒業生を日本語アシスタントとして派遣、また、ニュージーランドの姉妹校から卒業生を英語のアシスタントとして受け入れる

※英語教育を積極的に推進し、また、第2外国語としての中国語・韓国語を推進する

※語学関連の資格試験の合格者数及び、スピーチ・コンテスト等への参加を促進する

(3)「授業・コース制度の充実」:

ア 進路に沿った学力の育成

※進路を獲得できる力を養う授業・講習会等

※コース特性に応じた進路獲得アプローチ：各コースの特性を活かす

学際文系・理系コース ⇒国公立等一般入試突破が目標、アジア太平洋文化コース ⇒語学特化入試突破が目標、総合コース ⇒幅広い進路指導が目標

※各コースの大学進学者数を増加 (国公立) センター受験者：H26年40名、H28年100名をめざす(現役合格 H26年3名、28年10名)

(関関同立) H26年50名、H28年80名

イ 丁寧な進路指導

※1年からのキャリア教育の実施

※進路を踏まえて、卒業生との交流

※「きめ細かい進路指導を実施」：25年74%を26年には80%に

2. 生徒の活力を高め、充実した学校生活

(1)生徒会活動、部活動の活性化

ア 生徒会執行部の育成

※管理職との情報交換会、サポート体制の強化

※生徒学校教育自己診断における「生徒会活動が活発である」平成25年度47%を3年後の平成28年度に20%増の67%に

イ 部活動の更なる充実

※部活動参加率を平成25年度65%を3年後の平成28年度に10%増の75%に

(2)体験活動の重視

生徒の達成感の向上をはかり、自尊感情・自律心・共生の精神を育む

※体験型授業を教職員全体でサポート、

※体験活動の福祉体験授業(1年家庭科)、宿泊体験プログラム(2年)、キャリア講演会(1・2年)でアンケート実施、平均達成度「よかった」を50%以上に

3. 教員の指導力を高め、良き教育環境作り

(1) 教員の生徒一人ひとりへの対応力の育成

ア 授業力の向上

※教材研究をしっかりと実施し、わかりやすい授業をめざす

※各先生方の授業の見学会を実施する

※授業アンケートの効果的な活用

イ ICTを利用した授業、グループ学習、発表能力育成をめざす授業を心がける

※学校教育評価アンケートで「わかる授業」：H25年35%をH26年は40%に、H28年は50%

※受験に対応した適切な授業：授業アンケートで「学校の授業・講習で進路志望達成に必要な学力がつく」H25年度50%を、H26年度60%に

(2)教職員が相互理解を深め信頼関係を構築

ア 生徒指導体制を充実

イ 教員のニーズに応じた研修の実施

※「教職員間の相互理解と信頼関係で教育活動を実施」：H25年36%をH26年は45%に、平成28年に60%

4. 保護者・地域力を高め、連携の活性化

(1)保護者・地域との連携を深める

※「図書館運営」「学園の森維持」「国際交流支援」等の事業へ地域や保護者の参加を求める

※地域連携行事の企画と参加

(2)学校情報の更なる発信

※学校のウェブサイトの充実

※メルマガの発行

※学校説明会の充実と内容改善

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成27年1月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【生徒】 「入学してよかった」が73%であり、更に学校として努力していく必要がある。授業に対する肯定的な意見は概ね60%ぐらいであるが、「わかりやすい授業」が38%と一層組織的に授業方法を向上させていかなければならない。「学校が楽しい」は76%で、部活や学校行事等、熱心に取り組んでいる。</p> <p>【保護者】 「入学させてよかった」は79%であるが、授業に対する評価は、全体的に低めで50%を切るものもあった。PTA活動も参加率は24%で、更に学校との連携を図るようにしていかなければならない。</p> <p>【教職員】 本年度は、来年に向けて、長期的な展望から新しい取り組みを検討し、クラス編成やコース制度やカリキュラム等に関して吟味した。「校長が自らの教育理念等を明らかにしている」は57%で、更に教職員とはしっかり話し合っていかなければならないと感じている。</p>	<p>第1回学校協議会（平成26年7月4日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入試の倍率が上がってきている。 ・国際交流には地域のサポートも必要 ・クラブの活性化を進めてほしい <p>第2回学校協議会（平成26年11月4日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車登校の生徒に乗り方の指導を ・授業を見学した意見として、授業は落ち着いて行われている。 ・校内の掃除を更に徹底してほしい ・防犯体制も強化してほしい <p>第3回学校協議会（平成27年1月30日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・28年度からの受験制度の変化で、どうなるのか。 ・堺市での広報をもっとすべきである ・クラブの生徒たちが地域のイベントにもっと参加してほしい。 ・来年も地域の学校との連携を進めてほしい

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 生徒の学力を高め 進路を保障	1. (1)「学習における自律精神の育成」 (2)「生徒参加型の国際交流」 (3)「授業・コース制度の充実」	1. (1)人権学習の推進、適切な宿題を継続的に指示、家庭での勉強方法指導、インターネット等を利用した学習の確立など (2)国際交流において、各生徒レベルでの交流の充実、受入を新入生の保護者へアピール、交流派遣生の増加、インターネットを通じた交流の検討、卒業生の交流 (3)進路に応じた適切なコース編成、1年次・2年次のコース選択オリエンテーションの充実、受験タイプとコース目標の説明、スタディサポートの活用、成績結果分析データの蓄積	(1)「家庭学習時間1時間以上」:H25年30%を40%に、「家庭学習時間0時間」:H25年35%を25%に (2)インターネットを使った具体的な交流計画の実施、交流国際交流でのPTA・卒業生・地域の方の参加機会とホームステイ引き受け家庭の増加 3か所の姉妹校への派遣を計30名に (3)卒業生の進路保障、親切な受験指導の徹底、国公立に現役3名、関関同立に50名	(1)「家庭学習時間1時間以上」は42%で、向上はしたが、「0時間」が35%おり、全体的な引き上げにはなっていない。(△) (2)交流計画は、本年度新たに長期留学制度の導入や留学生の受入れや国際関連施設との交流もあり、大きく進んだ。派遣数25名、長期留学4名(◎) (3)受験生に対する講習会も例年以上に積極的に実施され、国公立には、現役で2名合格した。(◎)
2. 生徒の活力を高め 充実した学校生活	2. (1)生徒会活動、部活動の活性化 (2)体験活動の重視	2. (1)生徒会との連絡会の実施、部活動加入の推進、文化祭以外での文化部発表機会の増加 (2)体験活動の充実、教育相談の充実 (3)授業に協調学習・グループ学習を導入、教員のカウンセリングマインドを養成、授業への遅刻を徹底指導	(1)生徒向け自己診断「生徒会活動が活発」H25:47%を60%に、「部活動参加率」H25:65%を70%に (2)体験活動や授業ごとにアンケートで達成度を調査「よかった」H25:40%以上に／生徒向け自己診断「意見を聞いてくれる・相談に気軽に応じてくれる先生が多い」H25:51%と44%を5%増に、	(1)生徒会は、行事ばかりでなく学校説明会等でも積極的に頑張ってくれたが、生徒には認知度がなく、「生徒会活動が活発」は41%に留まってしまった。また、部活参加率も65%の維持であった。(△) (2)体験活動は肯定的な意見が70%あり、「気軽に相談に応じてくれる」も56%であった(○)

<p>3. 教員の指導力を高め 良き教育環境作り</p>	<p>3. (1)教員の生徒一人ひとりにへの対応力の育成 (2)教職員が相互理解を深め信頼関係を構築</p>	<p>3. (1)生徒の課題掘り起こし:拡大学年会議の実施、生徒面談週間の継続、スクールカウンセラーの活用 (2)研修の充実、教員間の授業見学の実施、運営委員会の充実</p>	<p>(1)教職員向け自己診断: 「問題行動に組織的対応できる体制」:H25年は27%を40%に、 「きめ細かい進路指導を実施」の「よくあてはまる」:H25年は13%を20%に (2)教職員向け自己診断: 「積極的な教科目標・指導内容の点検機会」H25年は53%を60%に 「各種会議が情報交換・課題検討に機能」:H25年は68%を70%に 「教職員間の相互理解と信頼関係で教育活動」:H25年は37%を42%に</p>	<p>(1)「問題行動への体制」は35%になり、「きめ細やかな進路指導」は72%に上昇した。(◎) (2)「積極的な点検」は57%で微増、「各種会議が情報交換に機能」は32%で減少、「教職員間の信頼による教育活動」は22%と減少した。教職員の連携を図れるように具体的な対策をしていきたい。(△)</p>
<p>4. 保護者・地域との連携の活性化</p>	<p>4. (1)保護者・地域との連携を深める (2)学校情報の更なる発信</p>	<p>4. (1)図書館の地域開放を考える、図書ボランティアの導入を推進する、地域連携の行事に参加する (2)学校のウェブサイトの充実、メルマガの発行、学校説明会の充実と内容の改善</p>	<p>(1)地域住民や保護者を対象とした講座の開設、講座数と参加者の増加を図る (2)学校や部活の活動報告を学校ホームページに逐一掲載、新デザインの学校案内を印刷し中学校・塾や学校説明会で配付、学校グッズを作る</p>	<p>(1)留学生に対する日本語学習の支援のためのボランティアを募集し、数名の方に協力いただいた。また、講座の開講もできた。更に、地域の小中高等学校とのイベントを通じての連携ができた(講座参加数30名前後、イングリッシュキャンプ参加数 中高大で30名 アジア留学生50名程度)(◎) (2)学校説明会を全員の教員で担当するようになり、スムーズに運営できた。ビデオ・パンフレットは改定し、学校グッズとしてクリアファイルを作った(◎)</p>